

上田市教育委員会 9 月定例会会議録

1 日 時

令和 5 年 9 月 25 日（月） 午後 3 時 00 分から午後 3 時 48 分まで

2 場 所

上田市役所 202・203 会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
教育長職務代理者	安 達 永 眞
委 員	森 田 小 百 合
委 員	大 久 保 恵 子
委 員	木 口 博 文

○ 説 明 員

小野沢教育次長、児玉教育参事、山賀教育総務課長、宮原教育施設整備室長、長田学校教育課長、上原生涯学習・文化財課長、和根崎上田城跡整備担当政策幹、久保田人権同和教育政策幹、小須田学校保健給食課長、清水第一学校給食センター所長、星野中央公民館長、遠藤塩田公民館長、金田上田情報ライブラリー館長、小林丸子地域教育事務所長、松木真田地域教育事務所長、若林武石地域教育事務所長

1 あいさつ

先ほど協議会の前に委員の皆さんもおっしゃっていたが、「暑さ寒さも彼岸まで」と言われているわけだが、特に今年は、この言葉が嬉しく感じるようなそんな年である。

猛暑の夏がようやく終わりを告げようとしているが、この暑さは、人間にとっても自然界にとってもとても大きな影響を与えたなということを感じている。

学校でも、児童生徒もこの暑さをよく乗り越えたなと思っている。特に、学校訪問で訪問したときに、暑くて駄目だ、何とかしてくれ、と教職員からも要望があった。それと特別教室であるが、理科室や家庭科室、技術室等についてもなんとかしてくれと聞いている。ただ、国の予算がなくて、非常に苦慮している。来年は涼しい夏であってほしいと思うが、そうはいかないかもしれない。特に、五中が改築直前であるため、大きなエアコンが入っていないので考えていかないといけないと思っている。あとは先立つものだけである。

それでは9月の定例会報告事項に入る。

2 報告事項

(1)「食物アレルギー講演会」の実施報告について（学校保健給食課）

○資料1により小須田学校保健給食課長説明

それではアレルギー講演会について、8月26日に実施したので結果を報告する。

会場は上田文化会館の大ホールで、第1部として、上田市のこどもの食物アレルギーの現状と小・中学校における取組について述べた後、長野県立こども病院小児アレルギーセンター長、伊藤靖典先生から御講演をいただいた。

先生には昨年度もお願いをし、今年度は2回目の講演であったので、昨年度と少し内容を変えていただきながら食物アレルギーについて丁寧にわかりやすく御説明をいただいた。

また、講演会の後30分程度、質疑応答の時間を設け、事前の質問や、会場の方からの質問にも丁寧に回答に応じていただいた。

参加者は、今回が2回目ということ、また、大ホールということで人数が心配したが、保護者の方や関係者の方々、昨年度同様、約100の方に御参加いただいた。

主な感想等は記載の通りで「参考になった」「勉強になった」等の感想をいただき、とても良かったのではないかと感じている。

峯村教育長

今年も100人の参加者があった。去年も多く、非常に皆さん関心の高いところである。

御意見、御質問いかがか。

木口委員

参加者100人ということであるが、保護者、学校・保育園関係者等のおおよその比率はわかるか。

小須田学校保健給食課長

細かい数字、それから学校関係者の方で把握していない部分もあったりするので、正確など

ころまではわからないが、大体保護者の方が 20 名程度、学校関係者の方等が 30 名程度、それからその他に保育園の関係者であるとか、その他という形で 50 名程度御参加いただいたという状況である。

木口委員

このアンケートだが、内容というよりは、これはどういう形でアンケートを取られているのか。紙ベースでアンケートを取っているのか。

また、今回の資料で 6 名の意見が出ているが、感想とかそういったものも含めて、どれぐらいの方が書いていただいているのか。今、それこそネットとかでもアンケートをとる方法だとかそういうのもいろいろあるけれども、どのような形でアンケートを取られたのかお聞きしたい。

小須田学校保健給食課長

今回、参加についてネットでの予約も行い、予約の際に御質問がある方は御記入いただくという形にし、質問については先生の方でピックアップして、会場でお答えいただいた。

あと、当日は、紙のアンケートをお渡しし、会場で書いていただくという形とした。

感想は、全体的には「良かった」とか「勉強になった」「参考になった」という方が多く、「わかった」「わからない」というチェックする項目もあったのだけれども、チェックなかった方が 6 名いたが、他は皆さん「よくわかった」という形で、感想もそのような内容が多かった。アンケートの回収は 89 名であり、大体の方が書いてお出しいただいたこととなる。

峯村教育長

不明な点があれば、学校保健給食課の方へおいでいただければ。

木口委員

その辺の数値なところも出していただけたらと思う。

峯村教育長

今後検討させていただきたい。ほかはよろしいか。

○全員了承

(2)「令和 5 年度生涯学習シンポジウム」の開催について（生涯学習・文化財課）

○資料 2 により上原生涯学習・文化財課長説明

令和 5 年度生涯学習シンポジウムについて御説明する。このシンポジウムは、生涯学習基本構想の策定を契機に、生涯学習の普及・啓発を通じた人材育成のために開催している。

経緯としては、令和 3 年に、上田自由大学創設 100 周年を迎えたことを契機に、社会教育運動の意義を顕彰すること、また、市民の自発的な学習活動を現在、そして未来に繋げていくため、この生涯学習シンポジウムのテーマに設定し、これまで開催してきた。

昨年度から 2 大会続けて市民の皆さんが主体的に開催するフォーラムを教育委員会が協働す

る、協働調査事業として実施してきているところであり、今年度も、協働での開催としたいということである。

昨年度実施したシンポジウムで課題提起された次世代への継承という観点から、今回は、未来を創る若い世代の研究者をシンポジストに迎え開催したいというものである。

内容については、記載のとおりであるが、テーマとして「今、わたしが学ぶ・あなたと学ぶ自由大学」として、20代30代の御覧のシンポジストをお迎えする。

この記載の皆さんについては、学生時代に上田自由大学を知り、これを契機に学びとは何か、それぞれに追求し、深めていただいた皆さんであり、今回その皆さんによるシンポジウムやグループワークを予定している。

教育委員会としては、このフォーラムを通じて、上田自由大学の精神をいかに未来に繋いでいくかを皆様と考え、そして社会教育活動の意義や公民館活動の理解が図られるような機会にしたいと考えている。詳細については、添付している資料を御覧いただきたい。

峯村教育長

御質問、御意見があればお願いしたい。

安達委員

2番の「経緯・目的」の、下から4行目にあるのだが、やはり生涯学習の一番根本だと思うのだが、とてもいいスタンスだなと思う。

「市民が主体的に開催するフォーラムに行政が協働する、協働開催する」なにか先ほどの公民館の話にも繋がると思うのだが、それで実際にもう、この自由大学運動の実行委員会が動いてそこに特化していくすごい良いスタイルではないかなというふうに思う。以上です。

峯村教育長

ほかにはいかがか。

大久保委員

感想めいたことですが、今回出演していただける方が若い方で、もともと当時の自由大学もまた、若い方がすごく情熱を持って学ばれていた場所だと思うので、そういったものが今、令和の時代にまた出現するようなイメージを持った。

また、今らしく、このチラシの裏に、ゼロカーボンに向けた取り組み記されてあって、今の若者は環境に配慮する傾向が強いという認識を持っているが、そういったことにも配慮されたチラシになっていて、とても良いイベントの内容になっていると思う。成功を願っている。

峯村教育長

11月26日、大成功に期待しましょう。よろしく申し上げます。

それでは(3)から(8)までは、説明はないが、御意見、御質問があればお願いしたい。

木口委員

前回の会議でもあった、未来学科 5 大学リレーの講座、こういう綺麗なパンフレットができたんだと思ったが、私も SDG s のいろいろ普及のことなどもやっていたりするが、この SDG s のいろいろなことを目標の部分それぞれの講座の中に入れていただいて、とても良いなと思った。その中で、17 番の目標になる「パートナーシップで目標を達成しよう」という SDG s の目標があるけれども、どの講座の中にもやはり SDG s の大事な部分は、社会がすべて繋がっているということであったり、協働していくという部分になるので、それをぜひ入れてほしかったというのが、ちょっと見て思ったところである。以上である。

峯村教育長

ありがとうございました。ほかにはいかがか。

大久保委員

資料 5 の、学校支援ボランティア交流会についてなのだが、その地域の方と学校との関わり方が近年コミュニティスクールなど変わってきた中で、こういったイベントを作っていただき、やっていただいて、実際に「こういった形で学校とうまく関わっています」というような具体的事例を共有する、そういった会が開かれたことは、とても良いことだと思っている。今後もこういった、やはり学校とどうやって関わっていけばいいのかということ、考えてらっしゃる地域の方は多いと思うので、そういった方のヒントになるような良い会になるように今後も続けていっていただきたいなと思った。

峯村教育長

御要望がありました。学校支援ボランティアの輪は、毎年、少しずつ広がっている。2 時間目休みに子ども達と遊ぼう、そういう取組も広がっているし、そういう内容の方向の報告会も含めて、こういう場は大事だなと思う。

ほかにはよろしいか。

木口委員

共催申請のところだが、学校教育課関係のところの受付番号 25 番、キッズマナースクールという行事であるが、このキッズマナースクールというのは、子ども対象にしたマナーのことに對して、全国的にやっているのは、私も知っているのだが、今回これを見ると、保護者向けの講座だったのだろうか、何か、個性心理学だとか、ライフプランセミナーということで、今まで私が思っていたイメージと違っていたのでどのような内容だったのかなど。

長田学校教育課長

今回、こちらについては、子育て世代、保護者向けの対象ということで聞いている。実際はすでに終わってはいるのだが、対象者は保護者の方というように申請の書類には出ている。

峯村教育長

よろしいか。

木口委員

了承。

峯村教育長

ほかにはいかがか。

木口委員

同じ学校教育課関係のところ、株式会社アイクさんがされている件だが、これは行事というのではなくて、冊子の寄贈というようになっていて、その寄贈する冊子に、教育委員会の名前を入れさせてくれというようなことか。

長田学校教育課長

この事業はもう長くやっており、今おっしゃるとおり、アイクさんが取材をし、協賛企業を集めて、一冊の冊子にして、その名前のところに上田市教育委員会が入る。これは全県的に取り組んでいるもので、それぞれの地域に1冊ずつ作成され、県内で10冊くらいになるのだが、それぞれの教育委員会に名義後援して、子ども達に配る。年度末に配っているという状況である。

峯村教育長

なかなかいい冊子である。

ほかにはいかがか。よろしいか。

○全員了承

峯村教育長

ありがとうございました。それでは以上をもって、9月の定例会を終了する。

○全員了承

閉 会